



MAKE NEW STANDARDS.
東海国立
大学機構



第6回流域圏保全研究推進セミナー



2022年3月2日(水)

岐阜大学 流域圏科学研究センター

巻頭言



李 富生
岐阜大学流域圏科学研究センター長

昨年度に引き続き、第6回流域圏環境保全研究推進セミナーを開催できますことを心より感謝申し上げます。新型コロナウイルスの世界規模のパンデミックはまだ収まっていませんが、このように皆さまと直接意見交換をする機会を持てることを大変うれしく思います。

岐阜大学流域圏科学研究センターは、流域環境を扱う国内初の組織としてスタートした前身の流域環境研究センターの時代（1993.4～2002.3）から質の高い研究と教育支援を推進することで本学の環境科学研究教育を牽引する役割を担ってきました。近年では、関連学術分野の拠点として流域圏環境科学および環境保全学に関する研究教育を国内外と密に連携協力して推進しています。

現在、環境科学の分野ではSDGs（持続可能な開発目標）の達成や脱炭素社会の実現などグローバルな枠組みでの取り組みが求められています。一方で、2020年から続く新型コロナウイルス感染症の世界的なパンデミックにより人々の行動様式・生活様式が大きく変わってきています。これらに加えて、近年世界各地で報告されている薬剤耐性菌やマイクロプラスチックなどの newly-emerging contaminants による環境汚染問題のほかに行動様式・生活様式の多様化や生活水準の高度化に伴って地域共通・世界共通の新規環境問題も今後続々と出現すると考えられます。このような状況に対処するため、流域圏の現状診断と管理支援および変動予測に基づいて、安全で快適な流域環境・生活環境を実現するために当センターの果たす役割は益々重要になってきます。それを見据えて、当センターは令和2年度に組織内再編を行い、これまで以上に「流域圏科学」、「流域圏保全学」の発展に邁進していきたく思います。また、本学の環境科学を牽引する当センターは教育活動においてもより一層の貢献を果たすため、これまでの高度な研究成果、2009年度より実施している岐阜大学流域水環境リーダー育成プログラム (BWEL) を基盤として、流域環境分野におけるアジア最高水準の研究教育拠点を目指していきたく思います。

今回の第6回流域圏保全研究推進セミナーでは、当センター教員による最新の研究成果の紹介とともに、センターが実施している共同研究事業における共同研究者からの報告、センターが支援している若手研究者（博士課程学生、研究員）からの報告が実施されます。また、当センターで長年にわたり教育研究活動にご尽力なされ、多大な成果を挙げている津田 智准教授により、「タネ 火種 めしのたね」と題した退職記念講演もしていただきます。この講演を通して、研究者として成長していくプロセスの楽しさ、姿勢、素養を感じて頂けたら幸いです。

本セミナーの開催が当センターの活動を多くの方々に認知していただく機会となるとともに、これからの「流域圏科学」、「流域圏保全学」の在り方の議論の場となることを期待しております。

今後とも引き続きご指導とご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

李富生

プログラム

2022年3月2日（水）

9:30-10:00	受付/Webex 接続
10:00-10:15	開会挨拶：森脇 久隆 岐阜大学学長 李 富生 流域圏科学研究センター長
10:15-11:15	津田 智 准教授 最終講義 「タネ 火種 めしのたね」
11:15-12:00	【森林機能研究部門】 斎藤 琢：「岐阜県の森林炭素吸収量ポテンシャルの将来予測」 日恵野 綾香：「植物病原性卵菌類の分布特性の解明と病害リスク評価」 村岡 裕由：「森林の光合成機能とフェノロジー，気候変動応答に関する 観測・実験・モデル化」
12:00-13:00	----- 休 憩 -----
13:00-13:45	【水物質動態研究部門】 玉川 一郎：「レーザー通信のための大気揺らぎの研究」 原田 守啓：「“清流長良川の鮎”を支える長良川流域の河川環境と温暖 化影響」 【地域協働推進室】 小山 真紀：「地域の伴走支援のあり方について：関市武儀地域における 地区防災計画支援の事例から」

<p>13:45-14:30</p>	<p>【流域研究活動強化（若手研究者支援）】</p> <p>Maulana Yusup Rosadi：「Use of fluorescence excitation-emission matrix analysis for monitoring the residual chlorine in a drinking water treatment plant」</p> <p>Li Wenjiao：「水-有機溶媒を用いた土壌洗浄によるペルおよびポリフルオロアルキル物質汚染土壌(PFASs)の原位置浄化 Remediation of <i>per-</i> and polyfluoroalkyl substances (PFASs) contaminated soil by in-situ soil flushing with water-organic solvents」</p> <p>Cao Ruoming：「日本中部地区における冷温帯落葉林の窒素循環 The nitrogen cycle in a cool-temperate deciduous forest, central Japan」</p>
<p>14:30-14:40</p>	<p>----- 休 憩 -----</p>
<p>14:40-16:30</p>	<p>【共同研究事業成果発表】</p> <p>共同研究支援室 村岡裕由： 共同研究事業について [5分]</p> <p>招待発表 村山 昌平（産業技術総合研究所）：「TKYサイトにおける長期観測により明らかになった炭素収支の年々変動と長期トレンド」[20分]</p> <p>重点課題 亀崎 和輝（産業技術総合研究所）：「硫化カルボニルを指標とした森林の純一時生産量の評価 ～濃度測定法の開発と今度の研究～」[15分]</p> <p>一般課題 小島 一輝（岐阜県農業技術センター）：「固形培地耕栽培に対応した病害対策技術に関する研究について」[15分]</p> <p>一般課題 小島 光平（株式会社パスコ）：「高山試験地におけるスマート測量ポールの位置精度の評価」[15分]</p> <p>高山試験地報告 鈴木 浩二 [10分]</p> <p>微生物分析室報告 日恵野 綾香 [10分]</p> <p>水質分析室報告 廣岡 佳弥子 [10分]</p>
<p>16:30-16:45</p>	<p>流域水環境リーダー育成プログラム推進室報告</p>
<p>16:45-17:00</p>	<p>閉会挨拶：王 志剛 岐阜大学副学長（研究・産学連携・情報担当）</p>

第6回流域圏保全研究推進セミナー

発行日：2022年3月

編集・発行：岐阜大学 流域圏科学研究センター

流域圏保全研究推進セミナー実行委員会

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 岐阜大学流域圏科学研究センター

TEL：058-293-2061 FAX：058-293-2062

E-mail：jim@green.gifu-u.ac.jp

Home page：https://www.green.gifu-u.ac.jp/



センターHP
のQRコード

